

健康 アドバイス

ピロリ菌について

ツカザキ記念病院 内科 光野 正人

はじめに

ピロリ菌については皆さんよくご存じだと思います。覚えやすい愛嬌のある名前です。ヘリコプターではありませんが両端に回転する数本のヒゲで移動しています。正式名はヘリコバクター・ピロリ菌と言います。今から約33年前に発見されました。発見者は後にノーベル生理学・医学賞をもらっています。

強酸性の胃液の中に住みつき、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、等の原因となっています。さらには慢性胃炎の原因となり胃癌を誘発することが分かってきました。

ほとんどが幼年期に経口的に感染すると言われており衛生環境の悪かった時代に幼年期を過ごした高齢の人たちの多くが感染しています。衛生環境の良い時代の若い人達でも感染はありますが感染経路は定かではありません。経口的に感染するのは間違いないようです。

ピロリ菌は悪い菌？

胃潰瘍、十二指腸潰瘍の多くはピロリ菌が原因で発生していますので除菌することによって再発は防ぐ事が出来るようになりました。慢性胃炎は萎縮性胃炎ともいわれます。ピロリ菌の長期の感染のために胃粘膜が薄くなり血管が透けて見えるようになってきます。萎縮粘膜が腸粘膜に置き換わってくる過程で発癌の危険度が増加すると言われていています。その他にも色々な病気に関係していることも分かってきました。このことでもピロリ菌はたちの悪い菌です。

ピロリ菌を発見するには

まずは慢性胃炎の発見とピロリ菌感染の検査

が必要です。胃潰瘍、十二指腸潰瘍があれば症状（腹痛、嘔気、黒い色の便等）で発見される事が多いのですが、慢性胃炎は無症状か、何となくおかしい程度の症状で経過することが多いようです。

そのためまずは上部消化管内視鏡検査が必要です。内視鏡検査では肉眼的観察のみでもピロリ菌の感染、非感染はある程度わかります。図1、図2はピロリ菌感染のない胃です。見た目にも綺麗ですね。

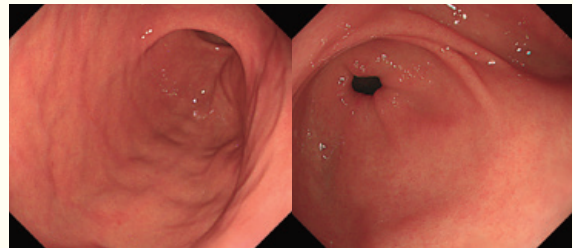


図1

図2

図3から図6はピロリ菌感染があります。胃粘膜表面にべったり付着する粘液、粘膜の発赤ピラン（図3）、血管が透けて見える高度の粘膜萎縮（図4）、腸に似た粘膜再生（図5）、鳥肌に似た粘膜所見（図6）、赤いポリープの存

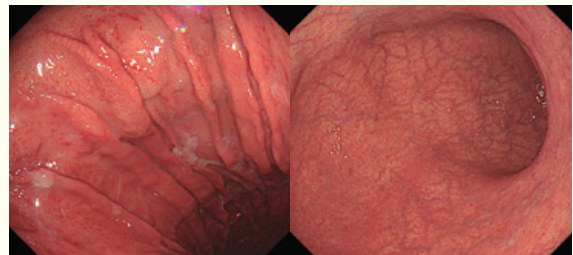


図3

図4

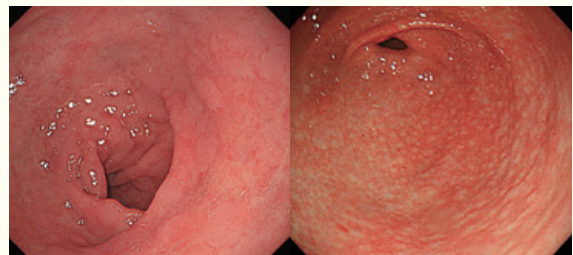


図5

図6

在などがピロリ菌感染による慢性胃炎の所見です。

内視鏡検査で慢性胃炎の診断がなされた患者さんでピロリ菌感染を疑う場合は感染診断として培養、尿素呼気試験、便中ピロリ抗原検査、抗ピロリ抗体検査などで確定します。これらは保険診療が可能です。注意してほしいのは感染診断のみでは保険診療はできません。保険診療には必ず内視鏡検査が必要です。

ピロリ菌の除菌

ピロリ菌感染と確定されれば、今まで述べましたことから除菌が必要となります（超高齢の方々については薬の副作用のリスクから必ずしも必要ではありませんが…）。

2013年2月からピロリ菌感染慢性胃炎患者さんへの除菌に保険適用拡大がなされて以後、除菌される方が飛躍的に増加しています。

除菌方法は制酸剤と2種類の抗生剤を1週間内服します。1回目（1次除菌）の内服で約70～80%が除菌可能ですが、除菌できなかった残りは抗生剤を1種類変え同期間服用します（2次除菌）。これにより残りの約80%近くが除菌に成功しますが、除菌できなかった残りは3次除菌となり保険適応外となります。最近は新しい制酸剤の登場で1次除菌率が90%以上になってきました。

除菌の際、薬の副作用にも注意が必要です。抗生剤アレルギーなどを持った人は原則使用できません。もっとも多い副作用は下痢ですがそのほか皮疹（飲み終わってからも発生する場合があります）、味覚異常等があります。これら

の症状が強い場合は治療中止となることもあります。

治療効果は服用終了後5～6週間後に感染診断法（尿素呼気試験、便中ピロリ菌抗原検査等）で検査を行います（図7は除菌前、図8は除菌2年目後）。

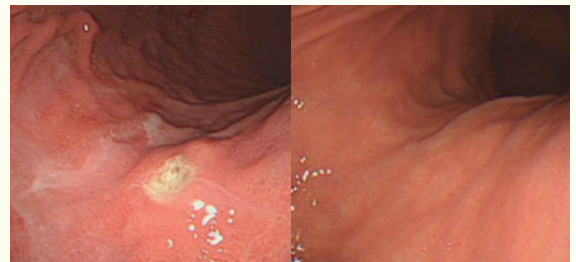


図7

図8

除菌成功後の注意

除菌成功後は胃粘膜の慢性炎症が改善し、粘膜の若返り？のため胃酸分泌が多くなるようです。その結果、胸やけなど軽度の逆流性食道炎の症状を訴える人も少数ながら見られます。

除菌後も胃癌発生のリスクがありますので定期的内視鏡検査（1年毎）が勧められています。このような検査で発見される胃癌は早期胃癌（粘膜内癌）がほとんどですので、多くの場合侵襲の少ない内視鏡的胃粘膜剥離術（ESD）で治療が可能となっています。

おわりに

ピロリ菌除菌治療によって、近い将来胃癌の発生、死亡率の低下が期待されます。胃は美味しく食べるためにはとても大切な臓器です。日頃からストレスにも曝され、酷使されています。暴飲暴食に気を付けてバランスの良い食生活で大切な胃を守りましょう。